

法政就業力通信

～今月のさんぽ道～

法政大学
「就業力を育てる3ステップシステム」
プロジェクト
<http://3step.hosei.ac.jp/>

文部科学省『大学生の就業力育成支援事業(就業力GP)』採択プロジェクト

教員向けフォーラム開催報告

特任教員 有田 五郎 (ありた ごろう)



略歴

70年 慶応義塾大学経済学部卒。

70~06年 伊藤忠商事(株)勤務

06~11年 帝京大学、
法政大学職員。

11年~ 法政大学教員

「学生の学ぶ権利」を大切に

2月23日に就業力GP教員向けフォーラム「大学の授業は就業力を高めている!？」を開催しました。今回はその内容をご紹介します。冒頭のプロジェクトリーダー挨拶では藤村教授より、「教員・学生・企業それぞれが学生の学ぶ権利を大切にしてほしい。ちなみに学生の授業料は1コマ4千円にもあたる。大学の授業には就業力を高める要素がちりばめられている事をもっともっと皆が意識する必要がある。」と、このプロジェクトメンバーが共有している熱意が表明されました。

講師それぞれの個性豊かな授業紹介

引き続き特任講師による授業紹介が行われました。3名が担当する「キャリアデザイン入門」での講師毎の特徴を発表順に触れておきます。有田講師は「人と交わる」為のグループワークを重視し、出席率の非常に高い授業の秘訣を紹介、鈴木講師はアンケートをベースに法政大学生固有の傾向と課題を分析し、マズローの欲求5段階説にからめた講義内容を紹介しました。白井講師からは「書く」ことから自分と自分を取り巻く社会環境について理解を深めて大学で学ぶことの意義を見出す授業内容です。

各講師それぞれの取組み

正課外「就業力養成ゼミ」の実施報告が有田講師からありました。10学部・全学年からの受講者全員の成長と学年次との正比例の関係が受講前後に行ったアセスメント結果だったとの報告でした。白井講師は後期実施の「キャリアデザイン演習」でキャリアと各学問との関係性を学ばせ、専門科目と社会との繋がりを考えさせていることを報告されました。更に「就業基礎力養成」の授業では、情報の「収集」「整理・吟味」「アウトプット」を企業の協力を得て進める実態報告、タフな人材の育成を目指す為にデュアル・システムを応用した教育プログラムである「就業応用力養成」の紹介がなされました。

現代の学生は「与えられること、教えられること」に慣れている

授業紹介後に行われたパネルディスカッションでの問題提起の一つです。次の様な発言がありました。「我々教員は答えでなく、答えを考える仕組み・枠組みを提供している」「高度受け売り化社会が問題」「教員として基礎理論と課題を与えている、相談に乗っている」「機会を与えて、何を学ぶかを考えさせる事に意味がある」さて、読者の皆様はどう考えられますか？

授業以外の取組み紹介

最後に授業以外の取組みとして、鈴木講師からプロジェクトメンバーで開発した「ビデオ教材」の紹介と藤村教授から「就業力測定手法の開発」について中間報告がありました。ビデオ教材は年度末までに2本完成予定でHPにダイジェスト版をアップし、他大学からの使用希望にお応えする予定です。就業力測定手法は新年度本格開発を行い、他大学への開放を目指しています。参加者に活動状況をご理解いただくと共に今後への貴重な気付きを頂く機会となりました。



卒業は新たな学びの始まり

教授 藤村 博之 (ふじむら ひろゆき プロジェクトリーダー)

今年も多くの学生が卒業しました。一仕事終わったあとのホッとした気持ちと、4年間一緒に学んだ若者たちが巣立っていく一抹の寂しさの両方を感じるのがこの時期の教員です。

私は、教壇に立って教えるようになって22年になりますが、卒業生たちに毎年言ってきた言葉があります。

「君たちは、働き始めると、大学時代にもっと勉強しておけばよかったと思うだろう。君たちの先輩は、ほぼ例外なく、そう思ってきた。大学時代に必死で勉強してきた人でも、そう感じる。それは、働いてみて初めて、自分に何が足りないかがわかるからだ。そこで嘆いて終わるのではなく、そこから勉強を始めればよい。勉強の仕方は大学で教えてきた。もしわからなければ聞きに来い。カネはないけど知恵ならあるぞ！」

今年の卒業生たちも社会の中で活躍してくれることを祈っています。

略歴 84年名古屋大学大学院卒。
京都大学博士(経済学)。84~89年
京都大学経済研究所助手、90~97
年滋賀大学経済学部助教授・教授。
97年~03年法政大学経営学部教
授、04年~IM研究科教授。



2012年度にむけて…

特任教員 白井 章詞 (しらい しょうじ)

先日、キャリア教育のフォーラムに参加してきました。そこで、有識者から「キャリア教育栄えて、専門教育は…となっていないか？」という指摘がありました。確かに、最近ではキャリア科目の拡充に伴い、それらが卒業単位に占める割合も増えつつあると聞きます。本学においても、4月から新たに「就業応用力養成」という科目が開講となり、基礎編から応用編に至る全てのプログラムが揃います。そうしたなか、手元に送られてきた2011年度後期の授業アンケート(FD)には、「大学で学ぶことに目標や目的がうまれた」とのコメントがありました。キャリア教育が体系化されたいま、改めて本GPの原点を見つめ直し、それぞれの段階において学生が大学教育の意義を感じ取れるような授業を展開していきたいと考えています。

略歴 法政大学大学院経営学研究科
キャリアデザイン学専攻(修士)卒業
後、法政大学大学院政策創造研究科
博士後期課程に進学。
2011年3月、同博士課程中退。



大学でちゃんと学べばESは書ける

特任教員 鈴木 美伸 (すずき よしのぶ)

春休みに入り就職活動の学生が目立ちます。毎年、企業への採用応募のエントリーシート(ES)を評価しておりますが、大学で学ぶべきことを身に付けていない書き方には困ります。逆に言うと、大学で学ぶべきレポートの書き方でESは対処できます。

例えば「一次情報にあたる」というのは、論文作成の基本ですが、学生のESを読んでいると、その多くは企業開催のセミナーを情報源にしています。つまり加工された二次情報を事実としており、更には持論を述べずにそのまま書き写しているものが多いです。これでは中高の授業と同じで、黒板に書かれている内容を書き写して提出しているようなものですね。新年度を控え、新入生には大学生としての学びを体得させねばと、改めて思います。

略歴:日米ハイテク企業での営業・人事
を経て人事コンサルタントとして独立。
キャリアカウンセラー資格取得後は多く
の大学でキャリア論の講師を務める。

◆ 今年度を振り返って

3月25日の就業力育成シンポジウム「大学での学びは社会で生きる力になる」をもって、今年度の取組は終了となります。参加いただいた皆様、ありがとうございます。また、関係者の皆様のご協力に感謝いたします。これからもよろしくお願いたします。

■ 2011年度に開講された就業力プロジェクト関連科目

「キャリアデザイン入門」「キャリアデザイン演習」「就業基礎力養成Ⅰ/Ⅱ」(以上市ヶ谷基礎科目)、「文学部生のキャリア形成」「現代のコモンセンス」(以上文学部)、「キャリアマネジメントⅠ/Ⅱ」(経営学部)、「企業と経済の動向」(現代福祉学部)など。

■ 2011年度に行われた就業力プロジェクトの主な講座・イベント

新入生向け特別プログラム(4/23)、高校生向けキャリアガイダンス(6/26、8/7・21・22)、公開講演会(8/7)、就業力養成ゼミ(9~1月)、就業力測定手法プログラム(10/30、11/27)、教員向けフォーラム(2/23)、就業力育成シンポジウム(3/25)など。

このほかにも、エクステンション・カレッジの就業力育成セミナー(就労知識講座)、学習ステーションでの就業力をテーマにしたプログラム、4年生向け就活講座、キャリアセンターによる「職業コミュニティ」の立ち上げなども行われました。

「就業力を育てる3ステップシステム」プロジェクト (事務局:学務部教育支援課)

〒102-8160 東京都千代田区富士見 2-17-1

TEL:03-3264-9520 WEB:http://3step.hosei.ac.jp/